

式 辞「令和の時代を生き抜く卒業生へ」

春を告げる花々が小さな蕾をつけ、暖かな陽ざしを浴びる季節となりました。この良き日に多くの来賓の皆様、並びに保護者の皆様がたのご臨席を賜り、令和7年度第79回卒業証書授与式が挙行できますことを心よりお礼申し上げます。

大石中学校の79期生となる卒業生の皆さん、卒業おめでとう。

縁あって皆さんと出会い、こうして一人一人の顔を見ていると、忘れられない数々のシーンが思い起こされます。

春開催となって初めての体育祭。限られた時間と準備の中で、中心となって体育祭を成功させようと全力で取り組みました。一体感のある体育祭を創り上げてくれました。

また、2学期の合唱コンクール。何十回も歌い込み、合唱を仕上げました。感染症の全校的な流行の中で、1か月後に延期となりましたが、活動再開後も校長室にまで、皆さんの歌声が聞こえ、校舎に歌声が響く学校が私は大好きでした。きっと、1・2年生は「3年生のような合唱ができるようになりたい」と思ったはずです。感動のある合唱コンクールを創り上げてくれました。

そして部活動。暑さも寒さも、喜びも悲しみも、楽しさも悔しさも味わい、この3年間で学んだことは多かったことでしょう。同時にかけがえのない仲間を得たことでしょう。皆さんの活躍によって、地区大会から始まり、大石中学校みんなの夢を運んでくれました。

私が常に皆さんに期待していたことは「みんなでさらによい大石中学校をつくっていきましょう」ということでした。修学旅行、体育祭、合唱コンクール、部活動、受験など、どれも自分一人では成し遂げることはできません。仲間との思い出は一生の宝物です。皆さんにとって、心に残る思い出となった1番の要因は、紛れもなく、仲間、友の存在です。私はみなさんだからこそ、この伝統ある大石中学校を前に進めることができたと思っています。ここまで学校を引っ張ってきてくれて、ありがとう。

いよいよ巣立ちのときが来ました。

皆さんへの最後の饞（はなむけ）の言葉は「今を生きる」ということです。「今をいかに生きるか」は誰もが避けて通れない大きなテーマです。生きていくことはいつも新しい目標に向かって挑戦することです。若さとは挑戦すること。その心意気をなくしたら、若さを放棄したことになります。皆さんにはチャレンジャーの心があるはずで、そして、挑戦すればそこには困難が立ちはだかります。皆さんのように頑張っている人のもとにはなおさらやって来るものです。「乗り越えられない壁はやって来ない」という言葉があります。壁は誰にでも与えられ、その人にとって少しだけ難しい壁が立ちはだかるのです。実際に、皆さんは初めて自分の人生を切り拓く進路という壁を乗り越えました。

そして最も大切なことは、誰でも生まれてきたことには意味があるということです。自分と同一人物はこの世にいません。自分という人間は後にも先にも今の自分以外に

は現れないのです。つまり、一人一人の人間は、かけがえのない存在です。そのかけがえのない自分や命を大切にしてください。それが自分を生み、育ててくれた親や家族への恩返しでもあります。

3年生の皆さんは、私にとって、3年間この学校の門を一緒にくぐった同志のような感覚さえもっています。そして、紛れもない学校の誇りです。

保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。これまで毎日学校に送り出していただきありがとうございました。また、学校行事への参加、部活動の応援、何よりも思春期を迎えたお子様に悩んだり、励ましたりと、保護者、ご家族の支えがあって今日のこの日を迎えることができたと思います。これまでの学校に対する温かなご支援ご協力に感謝すると共に心よりお祝い申し上げます。

結びにあたり、ご臨席を賜りましたご来賓、保護者の皆様には、心より感謝とお礼を申し上げますとともに、今後とも大石中学校の教育活動に変わらぬ御支援を賜りますようお願い申し上げます。

卒業生の皆さんの健やかで輝かしい未来と発展を心から祈念し、式辞といたします。

令和8年3月13日

上尾市立大石中学校長 萩谷 健